

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 20 年 3 月 8 日
事業所名	グループホーム 森の家
ユニット名	1F
事業所番号	2372201182
記入者名	職名 管理者 氏名 河合 花千代
連絡先電話番号	0586-25-5550

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
	<p>理念は「アットホームな介護」である。昔の大家族のイメージ、我家にいたような家庭的な雰囲気の中で自由に楽しく心地よい刺激のある生活を支援していく。</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
	<p>理念は、玄関・フロアーのよく目につく所に掲示している。</p>		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
	<p>地域の方には、運営推進委員を通じて理解して頂いている。 ご家族には入所時に説明・理解頂いている。 来訪者にも分かるよう、玄関に掲示している。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
	<p>道路・公園で出会えば、利用者様を交えて会話が出来る関係を作っている。 散歩に出た時、行き交う人に挨拶・声かけをこちらから行っている。</p>		ホームでの行事に参加してもらえるような関係づくり。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		
	<p>町内会に加入しており、祭・カラオケ大会に参加している。</p>		老人会・子供会との交流が出来ると良い。 地域行事への参加の機会を増やし、行事を通じてホームへの理解を深めてもらう。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	スタッフの中に地域の人も多く、話し合いは行っている。		今後取組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善していないと思う。若い職員が辞めていくから。		これから取組んでいきたいと考えている。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で報告・話し合いをしている。施設の人以外の意見を大事にしてサービスに活かしている。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ケアマネージャーが挨拶に行っている。		市町村担当者と連携を保てるような関係・機会を作っていきたい。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	全スタッフではないが、理解しているが活用までは行っていない。 後見制度は家族の申し出で利用している方もある。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、スタッフは学んでいる。 ご家族によるものも含め、スタッフ同士もお互いを注意して見る事により防止に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約に関しては十分な時間をかけ説明を行っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者様よりその時々意見・不満を話して頂ける関係づくりをしている。 個人的に聞いている。 聞き取った意見をミーティングで話し合っている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>2ヶ月毎にご家族に利用者様の現状の報告書を郵送している。 ホームに来所された時は、日頃の様子をお話している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の代表と話し合いをする機会がある。 意見箱が設置してあり、誰でも利用できる。 家族より要望として話して頂ける関係を作っている。 収集した意見・想いを話し合っている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティングにおいて、意見発表の機会がある。 意見箱が設置してあり、日時を問わず誰でも利用できる。 殆んど行っていない。</p>	<p>意見発表の場はあるが、スタッフからの意見は少ない。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>常にスタッフの数は多く配置している。 急な勤務調整にも対応可能なスタッフを確保している。 各フロアーに必ず役職者を勤務させている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフを各フロアに固定しており、馴染みの関係が保てるようにした。		職員の定着率を良くしていきたい。
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外の研修を受ける機会は確保されている。入社時にマンツーマンの研修が行われている。		研修への参加希望者を募るようにした。自主的に参加する事もあるが、組織的な取り組みはないので機会を作ってほしい。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が交流する機会は無い。研修を通じて交流する機会はある。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的に親睦会がある。休憩室が設けられており、ゆったりと休息できる。ミーティングで話し合える。管理者・上席者に不満を話せる環境。		慣れた頃に辞めるスタッフがあり、不満を把握できていない。その改善。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務状態により昇任・昇給がある。努力が報われる体制ができている。		向上心を持って自主的に勉強しているスタッフもいるが、何も考えていないスタッフもいる。揃ってステップアップをしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所になるまでに自宅（病院）を訪問して、周りの方からバックグラウンドを、ご本人から想いを聞いており、受けとめる努力をしている。ご本人が納得されるまで説明をしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族が求められている事を聞き、納得されるまで話し合いを行い、信頼関係を作っている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご家族が、「その時」求めている事はまず「入所」であり、他のサービスはその後に考えられる事が多い。一番支援してほしい事が「入所」だけで満足という家族もある。</p>	<p>折角入所された利用者に、理念に基づいた生活を提供できるよう考えていきたい。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ご本人にも見学に来て頂き、ホームの雰囲気を確認して頂く。必要に応じておためし入居も可能。入所され日の浅い利用者様には、戸惑い・不安を除くため、スタッフが付き他の人の間に入り馴染めるようにしている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>支えあう関係は少ない。利用者様から生活の知恵・作法等を教えて頂きながら支えあう関係がある。日常の作業を共同で行うこともある。</p>	<p>支えあえる利用者様が少ない。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホームから日頃の様子をお伝えし、ご家族にもホームへ来て頂くように働きかけている。 通院・往診の立ち会い等、ご家族が可能な時は一緒にいて頂く。		家族会を考える。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	「利用者が自分達を認識出来ない」と思い込むご家族もあり、面回数・面会時間が減っている。来所された時は様子を見ながら一緒に会話して、理解して頂くようにしている。		ホームへ来て頂く回数を増やしたい。 疎遠になっている家族の関係（一部の方）を諦めていたところを考え直す。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・友人の面会にはフロア・和室・自室でゆっくり過ごして頂いている。 家族・友人との外出も支援している。 高齢になると共に子供以外の面会が少なくなる。 会話の中へ馴染みの人・場の話題を組み込んでいる。		行事への参加の呼びかけ。
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の会う人同士の関わり合いが各々にされている。 もめごと・攻撃的な会話がある時は、スタッフが両者の間に入り、良い関係が保てるよう努めている。		利用者同士の関わり合いは大切な事と受けとめているが、いつも良い関係でいる事は難しい。
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された方のご家族が、ボランティアで琴の演奏に来て下さったりして、関係の続いている方もある。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の暮らしの中で、本人の希望・意向を聞くための時間を作り、把握するようにしている。聞き取り困難な方には、想いに近付けるよう努めている。</p>	<p>その時に希望される事を確認するゆったり聞き取れる時間を作りたい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所時、家族にセンター方式「家族版」を記入して頂く。 本人に直接聞いたり、会話の中から拾い上げている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>一人一人の状態を見ながら、出来る事出来ない事を拾い出し、ミーティングで確認している。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族の希望を聞き、最近変化している事、出来る事出来ない事を話し合い、モニタリング表を作成。 ケアマネが計画書を作成している。 家族と直接話をした計画が立てられていない。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>長期目標・短期目標があり、各々に見直している。 状態に変化があった場合は、期間に関係なく見直し作成している。</p>	<p>家族との会話を大切にしたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	なるべく同じ表現・文面にならないように記入。バイタル・食事量・排便・排尿・体調変化等がスタッフ全員が把握できる。利用者の状況が判る様な介護記録になっていない。介護記録をファイルして全員で活用できるようにしている。		もう少し計画に活かせる文面が書けるようにしたい。介護計画に反映できるような記録にしたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じて、通院介助・送迎介助をしている。		利用できるサービスを考えたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的にボランティアによる読み聞かせ。不定期だがボランティアによる太鼓・琴の演奏がある。警察官の立ち寄り所になっている。民生委員との関わりを作っている。		利用できるサービスを考えたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	定期的に「移動美容院」。往診によるマッサージ。		利用できるサービスを考えたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ケアマネが挨拶に行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に利用者様、それぞれの主治医による往診・受診を受けている。 主治医の専門外の病気・リハビリもホームのかかりつけ医に受診を受けている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	全ての利用者様ではないが、専門医の受診を定期的に受けている。 専門医の受診まで望まれない家族もある。		変化していく認知症を専門医に相談できると良い。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職が在籍していない。 主治医・看護師と細かな相談をしながら対処している。 訪問看護の利用。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された時、病院にこまめに伺い、利用者様の様子を見ながら病院関係者・ご家族と相談している。併せて、退院後のケアについても相談している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアを希望される家族とは、主治医・ご家族・ホームとの話し合いがなされていて、方針の共有がされている。		ターミナルケアの利用者を経験していて、ご家族には満足して頂いている。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者本位に、主治医・訪問看護・ご家族・ホームでチームとして支援できるようになっている。		ターミナルケアの利用者を経験していて、ご家族には満足して頂いている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えはご家族が決めて報告される事が多いが、ホームとしては出来る限りの情報を提供している。		家族の事情もあるが、ホームで穏やかに過ごして頂きたい。
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人の発言に否定する事なく、人生の先輩として接し、相手に不快感を与えるような言葉遣いをしないようにしている。 部屋・トイレのノック。 個人情報が漏れないよう注意をしている。		スタッフの中には、親しい関係の表現として言葉が馴れ馴れしくなっている事もあるが、注意していきたい。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常の小さな事は自己決定される。 本人の希望が表現出来ない方には、分かりやすく説明し、本人本位に考えている。 利用者様との関わりの中から、想いを汲み取るよう努めている。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームには大まかな生活の流れはあるが、出来る限り利用者様のペースを大切にしている。 行事への参加も拒否が出来る。 希望をたずねたり提案をして、表出した希望に出来る限り応えられる努力をしている。		スタッフが日常的な作業に追われて、利用者様の希望する暮らしが支援出来ない事がある。
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容・美容は移動美容室を定期的にご利用。近所の美容室に行く事もある。 いつも同じ洋服にならないように、声かけしたり、選んでいる。 誕生会には、お化粧をしたり、洋服を変えている。		おしゃれを楽しみたいと思う気持ちを持ち続けるようにしたい。機会も増やしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は皆様とても楽しみにしてみえるが、準備・片付けは拒否される。 食事時間は家庭生活に近い時間を設定。スタッフも一緒に食べるようにしている。 メニューに意見・要望を取り入れる。		調理・片付けを一緒に出来るようにしたい。 年齢的・身体的に困難になっていて、それを理由に拒否される方には違う事で役割を持って頂く。 (メニュー作りに参加。)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	全ての利用者ではないが、支援できている。(日常的) 日常的でなければ楽しめるよう支援している。 ホーム管理者の下、本人の希望があれば酒も楽しめる。(認知のため飲酒を忘れる。赤くなっても。)		
56 気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用して、排泄のリズムを把握し、トイレでの排泄に努めている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時が設定されていて、曜日を選ぶのは無理だが、時間帯はある程度希望に沿うようにしている。 体調を確認しながら、ゆっくり入浴して頂く。 入浴拒否の方は、足浴・清拭・更衣を実施。		現在の勤務では無理もあるが、就寝前の入浴が出来ると良いと思う。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	大体の就寝時間はあるが、利用者の今までの生活の流れを考えて、その時の状況に応じた支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中での役割は、自然に出来ている。 楽しみ事・気晴らしは要望のある人を優先してしまう。 趣味・楽しみ事も自由にして頂いている。		訴える事の出来ない方の楽しみ方について、考えていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自室に金銭を持ってみえる人は少人数。 預かり金として施設で管理。 買い物に出かける時、自分で使えるように持って行って頂く。(全員ではない)		食事会・喫茶店の時、本人が支払う事も取り入れたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩以外日常的な外出は困難。 食事会・喫茶店等、何人が一緒に外出する事は出来ている。		ひとりのための外出支援が出来ると良いと思う。 散歩程度のマンツーマンの外出はしている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族の協力で、一緒に出かけられる。		ご本人・ご家族・スタッフが一緒に出かける機会があると良い。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の了承している相手に対しては支援している。 本人が携帯電話を使用している。		訪問が困難な家族・友人に手紙を通じて関わりを継続出来るように支援したい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問はいつでも出来て、訪問者・利用者様が心地良く過ごせる場所(自室・和室・フロア)を提供。 訪問者との飲食・外出も良い。		利用者・家族・友人共に高齢になっていて、訪問が困難になっているが、今後も働きかけたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていないが、ベッド柵の使用。 スタッフ数を多くして対応している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		危険を感じてきた時の預かり方を考えていく。
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		定期的な訓練をしていきたい。
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		夜間の訓練も考えたい。 地域との合同訓練。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族に日頃の様子をお伝えして、その中で話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝のバイタルチェック・表情・顔色のチェック。 朝・夕の申し送りで情報の共有。 異変時の連絡網の確立。 時間を問わず、医師との連携。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・用量・用法・副作用等、利用者毎にファイルしており、スタッフはいつでも読む事が出来る。 誤薬防止対策としてチェック表を作成している。		薬の理解を徹底していきたい。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表で有無の確認。 医師の指導の下、利用者にあわせた運動・マッサージ・服薬で対処。 水分・食事にも注意している。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを実施。 自分の歯・義歯・うがいの出来る・出来ない等、一人一人にあわせて介助している。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月2回の体重測定をもとに、食べる量の調整・水分摂取量のチェック。 食品材料が偏らない工夫と嗜好を考えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	予防接種と利用者・スタッフ共に受けている。 調理器具の定期的消毒。 塩素系漂白剤での清掃。		感染症についての勉強をミーティングで取り上げていきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所用品の消毒・除菌の日を決め実施。 キッチン用エプロンの着用。 安全な食材での手作りに努めている。 生物はなるべく避けている。		買いためは控え、新鮮な物を使用するようにしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の清掃に気を配り、清潔に心がけている。 玄関の施錠は夜間以外しない。 花・写真を飾り明るい雰囲気作り。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然採光。（フロアでの陽だまり） 掲示物・花による季節感。 フロアにはキッチンからの料理の音と匂いがする。（少し）		庭の活用を考えたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には、和室・テーブル席・ソファがあり、その日の気分で居場所が確保できる。 庭にもいつでも出る事ができる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	個室には、本人の使い慣れた家具・寝具・置き 物・写真等を自由に持ち込める。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	個室の窓は、日中開放 共有空間も換気に注意し、温度調節はエアコン・ ストーブで調整している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	廊下は広くとってあり、手すりを取り付けられ、 屋内でも長い距離を歩行するのが困難な方のた めにソファを設置。休みながら自力歩行出来るよ うにしている。バリアフリー。		フロアをすっきり整理して安全に移動できるよ うにしたい。(イスが多い。)
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	一人一人の自尊心を尊重しながら、あせらず根気 良く接しています。 一人一人の「変化していく・わかる力」を見守 り、理解して支援していきたい。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	庭の一部にテーブル・イスが用意してあり、いつ でも利用出来る。(ひなたぼっこ・ティータイ ム) 小さい畑があり、土に親しんだり、収穫も楽しめ る。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・基準より多いスタッフ
- ・トイレでの排泄
- ・可能な限りの自力歩行
- ・自力での食事摂取